

現在、日本人の平均寿命は男性80.21歳、女性86.61歳(平成25年簡易生命表より)と過去最高に達している。しかしその長い生涯をずっと健康体でいられるかどうかは別問題。我が国が長寿大国から真の健康大国へと進化するために、日々研鑽を重ねる研究者たち。その努力がエンザミンという成分を生み出した。

日常生活を介護なしで過ごせる健康寿命は、平均して男性71.19歳、女性74.21歳(平成25年度・厚生労働省発表)といわれている。晩年の10年前後は病魔との闘いを強いられる計算になってしまいが、これに対抗しうる成分がこれから紹介する「エンザミン」である。

体内酵素を活性化する「エンザミン」は1977年、京都大学の赤澤三三医学博士を中心とするプロジェクトチームによって開発された、納豆菌類を改良した納豆菌発酵代謝エキスが元になっている。

赤澤博士のインシヤルをとってAK菌と名付けられたその発酵菌と、植物性原料ミネラルを6ヶ月間に渡って発酵熟成することによって作られる。

その製法は特許を取得しており、酵素様へブチドや機能的オリゴ糖、核酸、その他菌体産生物

質などを産み出す。さらにこれらが分子量500以下にまで低分子化されるために、体内への吸収を容易にしているそうだ。

そして腸壁から体内に吸収されたエンザミンは、必要な酵素と再合成される。これが体内酵素を活性化させるメカニズム。

ちなみに一般的な酵素は熱に弱く、60℃以上に熱されると活性力を失う。また発酵の段階で糖を大量に使用することから、糖分過多が体に及ぼす悪影響も懸念される。そもそも酵素自体を摂取しても消化や代謝をサポートする体内酵素は増えないとも言われている。



京都大学 伊吹彦三 医学博士  
京都府衛生研究所にて赤澤博士とともに伝染病などを研究。エンザミンの研究を90歳になった現在も続けている。

赤澤チームの一員でエンザミンの開発を手がけた伊吹彦三医学博士は、「年齢とともに少なくなっていく体内酵素を補うために考え得る、最も効率的な手段がエンザミンの飲用だ」と語ります。

## 新境地へと向かうエンザミン

こうして生まれたエンザミンは、1970年代末には美容飲料として全国のエステティックサロンなどを中心に販売されるようになる。体内酵素の活性はタ

## 「酵素、ってナニ？」

植物が大地から養分を吸収するように、私たちは食べた物から栄養を吸収してエネルギーとして活用している。この営みに欠かせないのが酵素。

この酵素を大きく分けると、栄養素を消化するための『消化酵素』と、それをエネルギーとして消費するための『代謝酵素』に分かれる。このうち体外から補給できるのは消化酵素のみで、糖分、脂質、たんぱく質など摂取した栄養分によって酵素の種類も異なる。

ところが酵素栄養学によれば、年齢とともにどの酵素も不足して動きが弱くなるため、栄養分を効率よく活用することが難しくなってしまう。また、使い切れなかった糖分や脂質は内臓脂肪となって蓄えられたり、血中に残ってしまう。逆に体内酵素の動きが活発であれば、血中の栄養素はエネルギーとしてきちんと消費され、メタボリック症候群などの心配も少なくなると期待されている。



近畿大学名誉教授(医学部顧問) 松尾理 医学博士  
心筋梗塞、脳梗塞のための血栓溶解薬t-PAの開発者。エンザミンのメタボリックシンドロームへの有用性を研究している。

イエットや美肌作りには必須。他の酵素に比べて圧倒的に低カロリーであったことも功を奏し、多くの女性たちに愛飲されるようになっていった。

一方で開発メーカーである株エンザミン研究所(本社大阪市)は健康方面での活用法を模索し続け、様々な研究を重ねていた。この研究のリーダーである降井

で、今後はエンザミンの名を目にすることも多くなりそうだ。

## 薬だけに頼らない健康体へ

「特定健診保健指導」いわゆるメタボ健診制度が施行されたのは2008年4月。これは内臓脂肪、高血圧、高血糖、高脂質(中性脂肪、コレステロール異常)のうち2項目以上が該当する場合は、メタボリック症候群と診断された後、改善指導を受けるように定められた制度である。

なぜなら日本人の死因のうち、約1/3がこれらの不調が関与しているため。それ以前にもメタボの弊害による生活習慣病も増えている。

願わくばいつまでもパフォーマンスな健康体でありたい。しかし40歳以上の実に半数が高血圧だというのが日本の現実である。

期待を込めてエンザミンの進歩を見守っていきなさい。

株エンザミン研究所  
大阪府大阪市北区栗本1-6-8 11F  
問合せ先 ☎0120-510-999  
<http://enzamin.com/>

酵素のチカラで  
いつまでも健康に

# 世界に誇る「エンザミン」という名の健康成分 老舗酵素メーカーの 新たな挑戦

